

## 税所幹幸教授への献辞

総合管理学部長 黄 在南

税所幹幸先生は、1994年4月に本学に着任され、以後22年間にわたり、熊本県立大学総合管理学部の発展に大きく貢献されました。2016年3月31日付けで定年退職されるにあたり、先生のこれまでのご貢献に感謝するため、さらに先生のご退職を記念して記念号を捧げます。

世の中のすべてのことは何らかの出会いから始まりますが、先生の教育研究者への立志もある方との出会いによるものでした。1976年3月に熊本大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程を修了された先生は、その年の4月に日本電気株式会社に入職されます。教育研究者への志が芽生えたのは、同じグループに配属されたある先輩からの助言がきっかけでした。日々の激務の中で人を育てることの大切さを気付かせてくれたと思い返されました。

それから6年後の1982年4月に八代工業専門学校情報電子工学科に講師として赴任され、すでに亡くなっていた先輩との約束を果たします。若い学生と一緒にコンピュータについて勉強し、特にプログラミングの楽しさ、厳しさを経験する日々が続きます。そのあと1994年に4月には総合管理学部の助教授として着任されますが、創設されたばかりの本学部の情報教育の基礎を築き上げます。とりわけ工学系とは違う社会科学系よりの本学部独自の情報教育のあり方を示していただきました。

「自分で問題を発見し、その問題を解決できる人材に近づけるように、積極的に大学生活を送ってもらいたい」という先生の学生へのメッセージはまさに本学部が目指す人材養成の目標でありましたし、「大学生活は自分を鍛える場所だと考え、いろいろなことにチャレンジして欲しい。そのためのサポートをしていきたい」というメッセージは私たち教員の教育研究者としてのあるべき姿を如実に表すものでした。

本学部では、学部の授業科目として「コンピュータリテラシー」、「コンピュータの基礎（ハードウェアとソフトウェア、プログラミングの基礎）」、「プログラミング」、「計算機構成論（コンピュータのハードウェア）」、「演習」などを担当されますが、楽しさと厳しさのバランスを何より重視する先生の授業は大好評でした。また情報コースで毎年行われる卒業論文発表会に向けたゼミ生の指導には格別に力を入れて頂きました。2年後期からゼミに所属し先生からお教えを頂き、4年生になってからは卒業論文の作成に取り組みその成果を発表会で発表する、という努力と忍耐の期間を通して成長していく学生たちの姿を見守るのが教育研究者としての醍醐味であったと回想されていましたが、一方、忍耐に絶えきれず退学していったゼミ生には力になれなかったことに心を痛められる姿に、教育研究者として人間味あふれる様子が伺われました。

先生は、1997年9月から1998年8月までの1年間、ニューヨーク州立大学オルバニー校教育学研究科において在外研究をされます。専門分野であられる教育工学の研究を深めるためでした。主なテーマは、コンピュータを利用した学習支援システムの設計と開発でありました。復帰後は、

インターネットを利用した科学実験システムに関する研究、eラーニングシステム構築に関する研究、再帰アルゴリズムを可視化する学習支援システムに関する研究等々、一貫して学生の学習支援の研究に全力を注がれました。

さらに地域に密着した研究としては、日赤健康管理センターの人間ドックで蓄積されたデータを活性化する情報システムの研究と開発、博物館における情報システムの研究、熊本県小国町のマルチメディア情報システムの調査等々、お忙しい教育と研究の傍ら地域貢献にも大きく関与して来られました。

本学の運営においては、とりわけ高大連携と就職対策において大きく貢献されました。高大連携については、1999年に中央教育審議会が大学と高校を通じた全体教育が必要であることを答申したのを機に全国的に普及することになりますが、地元の高校側の協力を得ながら連携プログラムの開発や運営にご尽力を頂き、現在ではそれらの実績を下に本学独自の高大連携のあり方が定着し続いています。

また就職対策においては会社訪問や企業との懇談会など、卒業生の就職に直接に影響を与える様々な企画や催しに力を入れて頂き、本学部の卒業生は常に90%台の高い就職率を維持してきました。卒業生の就職率と就職先は高校生や保護者にとって大学選びの際の最大の関心事ですが、その現れとして、今年のオープンキャンパスのとき行われた卒業生の大学生活や社会生活を紹介するプログラムには予想をはるかに超える人々の参加がみられました。

私は22年前、先生と同じ時期に本学部に着任してきましたが、これまで先生には人間としてのあり方について多くのことを教えられました。頼まれたら決して断らない、人の意見を尊重する、自分より周囲を盛り立てる、常に温和な姿勢で人に接する等など、先生の人柄に触れ自分の未熟さにまざまざと気づかされたことがどのくらいあったのか、これからは先生からのお教えを人々と共有していくことが私たちに残された学部の使命でもあります。

退職後のご計画について伺ってみました。これまでコンピュータ関連の知識を勉強してきたので、これからは長い間お世話になった地域の方々にそれらを広めるボランティア活動に第二の人生を掛けたい、といういかにも先生らしい心に残るご返事を頂きました。多くの方々が先生の人柄に触れ、生きる楽しみを覚えることを心からお祈りいたします。

最後となりますが、税所先生、長い間、本当にお世話になりました。